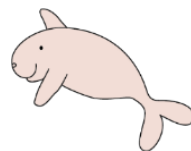


政府に従属した最高裁 ～闘いはこれから～

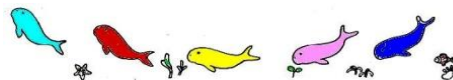


9月4日最高裁は、大浦湾の軟弱地盤や環境保全措置などの論点を棚に上げ、国と自治体に対立したときは国に従うべきとの判決を出しました。この判決は、1999年地方自治法改正で決まった「国の関与は必要最小限のものとし、地方公共団体の自主性、自律性に配慮しなければならない」に反するものです。デニー沖縄県知事は「地方自治の本旨をふまえた公平中立な判決を最後まで期待していただけに」と批判しています。岸田内閣は「沖縄県は最高裁判決に従う義務がある」としていますが、設計変更承認を沖縄県に強要できません。設計変更を実現するには、政府が代執行訴訟で勝訴しなければなりません。沖縄県への「改善勧告」、「改善指示」、「改善命令」の手順をふまえた上での代執行訴訟です。最高裁判決前の8月28日、沖縄平和市民連絡会など9団体は沖縄県に「設計変更申請を承認することなく、再度の不承認、又は埋め立て承認の再撤回を！」を求める要請書を提出し、デニー知事を激励しました。裁判が続く限り、軟弱地盤が改良できない限り、辺野古新基地建設はできません。

阻止する展望はあります。米国政府は設計変更を了解してはいません。防衛省交渉で「（軟弱地盤改良の実現性について）米国政府は了解しているのか」と追及すると、「説明してい

る」としか回答しません。米連邦議会上院軍事委員長も、昨年9月私たちが送った書簡を見て「軟弱地盤について理解を深めたい」と答えています。9月11日米国の情報公開法を活用して、国防総省に軟弱地盤の改良の実現性について見解を求めました。一方、沖縄防衛局の助言機関・環境監視等委員会では「（沖縄県などのジュゴン調査と比べて）沖縄防衛局がジュゴンの食み跡や糞などを発見できていないのはなぜか」（5月16日委員会議事録）と疑問が出るほど杜撰な調査が問題になっています。大浦湾の埋め立て工事を再開するうえで問題が山積しています。生物多様性豊かな大浦湾が19年10月に Hope Spot に認定されました。

世界で147海域、日本では初の認定です。環境省も14年3月、辺野古大浦湾海域を「生物多様性の観点から重要度が高い海域」に選んでいます。昨年12月生物多様性条約 COP15では2030年までに陸・海の30%を保護地域にすること（30 by 30）を決定、日本政府も今年3月「生物多様性国家戦略」として決めました。「基地建設ではなく、豊かな生物多様性の大浦湾を守ろう」、リーフレット「辺野古の海は Hope Spot」を広げましょう。



SDGs に反する大型公共事業・大阪万博



2025大阪万博開催まで1年半、「万博の開催延期？」がマスコミを賑わしています。参加国が自前で建設する海外パビリオン（A）の基本設計が未だに多くの国から提出されていません。そして、労働力不足下で2024年4月から残業時間規制が実施されるからです。7月13日、石毛・万博協会事務総長は「年末までに着工すれば間に合う」「参加国に代わり発注する選択肢もある」と居直る一方、岸田内閣は経産省総ぐるみで支援に入っています。これでは「SDGs 達成への貢献」、「世界との共創」をテーマにする大阪万博が、たんなる大型公共事業に成り下がります。また、万博協会や日本維新の会幹事長は政府に「大阪万博については労働時間規制の特例緩和」を要求する始末。テーマの「いのち輝く未来社会」に反して、働く者の命を削るものです。昼夜を問わない突貫工事では渡り鳥コアジサシの繁殖地（環境省認定）の保全などは

できません。当初の会場建設費も1250億円から1850億円に、物価高で2200億円に上振れと見込まれています。運営費も800億円から1200億円に膨らみ、入場料も大幅にアップ。負担は国、大阪府市、経済界の分担。国民の負担が大半です。会場の夢洲は廃棄物などで埋め立てられた人工島。有害なダイオキシンなどで土壌が汚染され、地盤沈下、液状化なども懸念されています。誰のための何のための大阪万博なのでしょう。京都新聞は社説「延期も視野に計画見直し」を主張しています。（事務局 蛭川義章）



軟弱地盤に関する国防総省の分析評価の公開を請求

情報公開請求について

9月11日、SDCCの国際担当であり、Okinawa Environmental Justice Projectの代表である私は、米国国防総省に対して、米国情報公開法を使い、辺野古新基地建設における軟弱地盤の問題についての同総省の独自の分析評価の公開を請求した。具体的には1) 軟弱地盤やその改良工事の実現性、2) 改良工事による環境への影響、3) 基地の運用の可能性、という3点の国防総省の分析評価を公開の対象とした。

この国防総省への情報公開請求は、9月4日に最高裁判所が玉城デニー沖縄県知事の設計変更不承認を違法とする判断を行い、新基地建設問題が新たな局面を迎えるなか、建設を止めるための市民社会の重要な取り組みの一つである。

情報公開請求の経緯、意義について

軟弱地盤改良工事や基地建設が、環境への影響なく可能である、と主張しているのは日本政府だけだ。その主張を認めたのが日本の裁判所だ。日本の多くの専門家は軟弱地盤改良工事の問題点を指摘してきた。また米国のシンクタンクにも、改良工事や基地建設の実現性そのものを疑問視するところもあり、米国連邦議会調査局や会計検査院も、地盤改良に伴う技術的問題や環境問題を指摘している。一方、基地を使う立場にある国防総省からは、軟弱地盤やその改良工事の実現性、環境への影響、基地の運用についての独自の科学的分析評価が公表されていない。科学的分析評価を行ったのかも不明だ。

これまでSDCCは、日米政府の軟弱地盤問題に対する認識について省庁交渉のなかで追求してきた。日本政府（防衛省）は、「辺野古が唯一の解決策であるという方針について、累次にわたり（日米で）確認し」基地建設を進めている、と政治判断や「合意」を強調してきた。しかしSDCCの「軟弱地盤改良や基地建設が環境に影響を与えることなく実現可能だと米側も了解しているのか」という視点からの追求に対しては、「日本政府は説明している」としか答えていない。米側も実現可能だと判断しているとは日本政府は答えていない。

私たちが確認すべきは、「辺野古が唯一」という政治判断や合意が、物理的に不可能なものを可能にすることはできない、ということだ。そ

して、辺野古新基地建設の今後の展開に玉城知事や市民社会が対応していく上で、国防総省の分析評価を公開させ、それを検証することが不可欠である、ということだ。特に玉城知事は、基地を使う立場にある国防総省の分析評価を検証することなく、裁判判決のみに従い、設計変更を承認することはできないはずだ。現時点における知事による設計変更の承認は、地盤改良はできない、基地は完成しない、環境破壊は続く、普天間飛行場は固定化する、その最悪のシナリオの責任をすべて沖縄県知事と沖縄県民が負う状況を作ることになる。そのような状況を作らせてはならない。これらの論点を市民社会のメンバーが共有し、玉城知事の設計変更「不承認」の姿勢を後押ししていくことが大切であり、そこに今回の国防総省に対する分析評価の公開請求の意義がある。

市民社会の今後の取り組み

今後SDCCは、軟弱地盤問題に対する国防総省独自の科学的分析評価が公開されていないこと、情報公開を国防総省に請求したことを、国内外の市民社会と影響力をもつ機関や人々に広く伝えていきたい。国際担当としては、まず米国連邦議会会計検査院、連邦議会調査局に報告し、次に、米国の市民団体に協力してもらい連邦議員にこの問題を伝えていく。

もし国防総省の分析評価が公開されたのなら、それを多くの専門家に検証してもらう取り組みを行いたい。国防総省の分析評価は英語なので、国際的検証が可能になるはずだ。もし国防総省が独自の分析評価を行っていないのなら、評価分析を求めていく。これらの取り組みを展開していくなかで、「辺野古が唯一」という政治的判断や合意の問題点や非実現性が明らかになり、新たな実現性があり、早急な普天間飛行場閉鎖／移設計画の作成と実施につながるはずだ。

*以上は、9月13日に沖縄県庁県政記者クラブで行った記者会見での吉川秀樹の発言文をニュースレター用に編集したものです。なお記者会見には、SDCC共同代表の海勢頭豊さん、沖縄環境ネットワーク、沖縄平和市民連絡会の真喜志好一さんも参加しました。
(国際担当 吉川秀樹)



2023 ZENKO
In 横須賀

第11分科会で埋め立て中止・海洋保護区 づくりの方針を議論しました



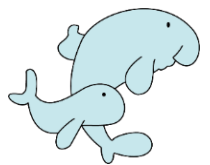
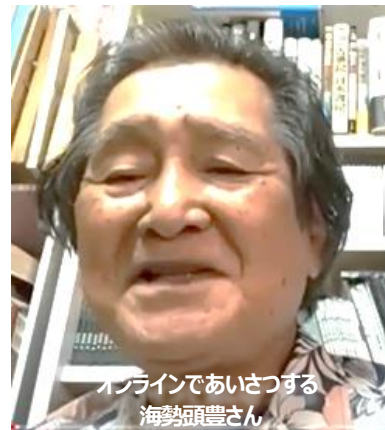
9月4日、最高裁判所は、玉城デニー知事の「辺野古埋め立て設計変更不承認」を取り消し、「是正指示」を求める「行政不服審査法」による国土交通大臣判断を、認める判断をしました。7月30日横須賀で開催されたZENKO 第11 SDCC 分科会では、この情勢を見越し、最高裁判決後の運動の展望を話し合いました。

海勢頭豊さんは、ジュゴン信仰による琉球の絶対平和主義が今ほど大切な時はない。軍事に軍事で対抗しても平和はない。SDCC の役割は大きいと激励されました。

基調は、最高裁が国土交通大臣の「不承認処分取り消し」を確定しても、大浦湾の埋め立ては実施できないと強調しました。9月4日最高裁判決後、行政法学者は「地方自治法は是正指示を適法とする判決が出て、承認は地方公共団体の判断に委ねている」(9/6 朝日 白藤 専修大学名誉教授)と「承認」が義務ではなく、代執行訴訟で国が勝訴する必要があると指摘しています。沖縄平和市民連絡会などは9月11日、県庁を訪れ、県に対して工事を承認

しないよう求める要請書を提出しました。

生物多様性の保全は国際的コンセンサス。技術的にも環境保全上も、大きな壁にぶつかり、国際的に孤立しているのは日本政府です。「Hope Spot」(希望の海)を海洋保護区にする世論を広げれば、埋め立て中止は可能です。埋め立て中止・ジュゴン保護の展望を明らかにする分科会でした。(関西 松島洋介)



報 告

6月石垣島に行ってきました

今年3月16日、多くの反対や不安の声にもかかわらず、陸上自衛隊石垣駐屯地が開設された。現状を知りたくて、関西から4人で石垣島へ向かった。

6月24日「基地はいらないチーム石垣」の上原正光さんに駐屯地周辺、パイン農家、PAC3、八重山平和祈念館、八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑などを案内してもらった。駐屯地は沖縄県最高峰の於茂登岳(525m)の麓にあり、水道水や農業用水の水源地だ。基地排水による水の汚染が危惧される。近くに小学校や民家があるのに弾薬庫の安全性は不明だし、グラウンド(ヘリパッド)が出来ると騒音も事故も心配。PAC3は観光客が通る道路のそばに設置され、近くにはガスタンクもあって安全性を無視していることがよくわかった。

翌25日は「いのちと暮らしを守るオーバーたちの会」の皆さんと交流することが出来た。代表の山里節子さん(85歳)は、沖縄戦で母や妹たちをマラリアで亡くし、8歳で滑走路などの工事に駆り出された体験から、軍隊は住民を守らないことを身にしみて知っている。8年前から週1回のスタンディングで基地反対の意思をアピールしてきた。「こぶしを振り上げるのではなく、わらべ歌やとぅばらーま(八重山の民謡)など先代が残してくれた文化遺産に支えられてやっている」「(基地のことを)申し訳ない、気の毒ではなく、日本全体の問題と自覚しましょう。」とおっしゃる。

基地には全国から実働部隊570人が配備され、様々に石垣島の生活の中に入り込んでいる。人間関係の濃い石垣島で反対の声を上げるのは難しいし、自分の子ども達にも伝わらなかつたりもする。それでも、孫に伝えたり、親戚の集まりで話したりと、決してあきらめないオーバーたちは、しなやかでたくましかった。

バナナ公園の展望台から見た景色も、新空港の埋め立てから守った白保の海も息をのむほど素晴らしかった。「基地撤去までがんばろう」と言うオーバーたちと共に、私もできることを続けていきたい。(関西 山根富貴子)



石垣港近くの人口島の道路脇に設置されたPAC3



石垣島駐屯地の入り口付近で。中をのぞいていると隊員が出てきた



9/4防衛省前行動

不条理に抗い玉城知事を支え続けよう！

9月4日、辺野古埋め立て工事をめぐる最高裁判決が出されたその日、首都圏では、最高裁前（国会包囲突）と、防衛省前（辺野古突）で同じ時間に抗議集会が行われました。双方とも多くの人々が参加して、最高裁の判決を非難しました。

私が参加した防衛省前行動では、当日行われた最高裁での様子が様々な方から聞かれました。「たった40人しか入れない法廷だった」「開廷して、1～2分で終了した」「三権分立とは、教科書の中だけだ」「最高裁は恥を知れ！と言いたい」など。

沖縄からの現地報告は上間芳子さん。知事を後押しして、これからも辺野古新基地建設を止めるために力を合わせて闘いぬくという熱い決意が伝わりました。

主催者挨拶では、花輪伸一さんが、判決内容を丁寧に説明し、「これで終わりではない！諦めることなく知事を応援しながら闘いを進めていきましょう」と、参加者を励ます力強い言葉があり、参加者は、大きな声で「最高裁判決は違法！」「辺野古新基地を断念しろ」「琉球列島を軍事要塞化するな」「知事の不承認を支持するぞ」と、シュプレヒコールを繰り返しました。

また、辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議事務局長の福元さんの、「この国の不条理に抗うすべての主権者で知事を支えよう！」とのメッセージが読み上げられました。支えよう！」とのメッセージが読み上げられました。

この日は、集会参加者の100円カンパによって購入した「ジュゴンバルーン」のお披露目がありました。辺野古突では、9月23日に「美ら海大浦湾を埋めるな！～どうなっているの？辺野古新基地建設～」と題して集会を開催します！（首都圏 宮城詔子）



新しいジュゴンバルーン



「最高裁は最低裁」

神戸

PFAS～永遠の化学物質～汚染から見えてくるアメリカ・日本・地位協定

9月10日神戸での、花と爆弾・チャリティートーク会 PFAS～永遠の化学物質～汚染から見えてくる アメリカ・日本・地位協定に参加しました。メイン講師はベテランズ・フォー・ピース（Veterans for Peace 平和を求める元軍人の会）のレイチェル・クラークさんです。

「沖縄の水のPFAS（有機フッ素化合物）汚染は米軍基地由来。飛行機の消火訓練を週に1回はやっている。その洗剤にPFASが使われている。沖縄では低体重児の出生確率が明らかに高い。子供たちの人権は守られていない。」

アメリカでもPFAS汚染が進んでいます。「米軍基地の多いコロラド州では81か所の農場がPFAS汚染によって閉鎖された。」「アメリカでは工場の汚泥が有機肥料に使われている。有機農場も閉鎖に追い込まれています。」

「コロラドの軍人一家では家族でがんが多発するケースがある。」「すばらしい自然に恵まれたメイン州も、美しく見える環境とは裏腹に、PFAS汚染が進んでいます。」

日本では2022年によろやく PFOS、PFOA あわせて

日本では2022年によろやく PFOS、PFOA あわせて50 ナノグラム/L という基準が決まりました。アメリカは4ナノグラム/L。そのアメリカですら汚染されています。基地由来だけでなく、大阪ダイキン工場からのPFAS汚染など、日本全土でのPFAS汚染が危惧されます。

レイチェルさんは「日本はNATOの事務所もおこうとしている。すでにオーストラリア軍、ドイツ軍、イギリス軍と自衛隊は合同訓練している。基地由来のPFAS汚染を広げず、環境と平和を守るために、事実上の米国による占領状態から脱しないと。」と言葉を強めました。

（関西 松島洋介）



お話しするレイチェルさん



交流広場



もう一つの7000日

辺野古の浜の座り込み7000日集会の記事がありましたので、もう一つの座り込みを報告します。

2004年8月2日、辺野古浜の座り込みに105日遅れて、国会議員会館前の座り込みが始まりました。

呼びかけ人は沖縄平和市民連絡会から派遣された平良夏芽さんです。「沖縄の人々が基地は嫌だと叫んでも政府は声



もうすぐ7000日を迎える国会前座り込みの「へのこっ会」(参議院議員会館前)。

へのこっ会(辺野古と共に国会に座り込む会)——19年前から始まった国会前座り込み。地道に長年続いている活動を、是非皆さんに知って頂きたくご紹介します。座り込み開始からもうすぐ7000日を迎えます。当時、60代だった人も80代となっていますが、地下鉄に乗り週2回、月曜日と木曜日の午後1時から4時まで、参議院議員会館前で元気に座り込みを続けています。

を踏みにじり、海を壊し巨大な基地を造るという・・・これは沖縄の問題ではない、日本の政治のあり方の問題です」と、訴えたのです。当初からの座り込みメンバーは「この言葉がずっと胸に残っている」と言います。

最初は、毎日、議員会館前の歩道に学生や市民が70～80人も座り込んだそうです。政府はボーリング調査と称して巨大なやぐらを立て無残に辺野古の海に次々に穴をあけ、カヌー隊が波にもまれ必死の抗議を繰り返している時でした。(この年、日本は自衛隊をイラクに送っています。)

平良夏芽さんらが沖縄へ引き揚げ、年が明けて座り込みの人数が減ってきた時に、「やめる理由は何もない! 続けましょう」と決め、週に2回のペースで、今に至っているそうです。

議員会館前は道路です。石垣に掲示物を張れないなど制約が多いのですが、19年前から頑張り続けている故北村千賀さんらの作ったジュゴンの絵のかわいいバナーは、「やめて!! 辺野古の海を埋め立てないで!!」と、強くやさしく訴えています。故斉藤美智子さんは93歳まで座り込みました。この場所の特徴は、国会に見学に来る外国人と学生に見てもらえることです。私達の行動は政府への抗議と共に未来の大人と全世界へのアピールになります。国会前座り込みは、10月1日に7000日になりますが、基地を造らせなかったお祝ひに向かって、明日もGO! です。

(東京都在住 兼杉美枝子)

⑥んさか通信★ジュゴンの⑥

お盆の夜はスーパームーン



私が住んでいるこの集落へ引っ越してきてすぐにコロナが始まった。

今年は4年目の夏、初めて通常のお盆を迎え、綱引きや道ジュネを見ることが出来た。こんなに若者が居たんだあ〜と、満月を仰ぎ感動、祭りを通して地元の繋がりが愛着を感じるものと改めて感じた。

コロナというのは感染症という病の怖さに加え、人との



旧盆の日の満月



久しぶりに地域で綱引き(南城市)

繋がりを断つという得体のしれないものだった。まだ終息はしていないので気を付けなければならないのだから・・・。

「世界一のわら綱」としてギネス認定されている那覇大綱挽も10月8日(日)にコロナの流行以降、4年ぶりの通常開催するそうです。

もともと農村行事としての綱引きは“綱を引くことで豊年を引き寄せる”とされ、豊漁・豊作祈願・無病息災・厄払い・害虫よけ・雨乞いなどの意味が込められ、勝負の結果で吉凶を占ってきたそうです。

デジタル化、AIなど時代はどんどん進歩していますが昔ながらの行事も継承していきたいものです。

(沖縄 小平裕美)

内灘の権現森 - ~こらむ・コラム~



台風の姿は右巴紋だ。いつも龍宮神の怒りに見える。特に8月の6号は沖縄本島で長く吹き荒れたかと思うと宮古島、石垣島、与那国島へ方向を変え、パトリオットを避難させ、かと思うと、今度は沖縄本島を越して大東島に行き、自衛隊基地配備に警告して見せた。よって北朝鮮がロケットを打ち上げ、同時に「Jアラート」で沖縄県民の恐怖心を煽り、南西諸島の軍事基地化を一気に正当化するつもりでいた政府の企みは失敗し、辺野古工事もこの間ストップした。私は、内灘闘争70年で、9月1日に小松空港に飛び予定であったが、今度は台風12号が沖縄本島に向かったため、それでは困ると思っていると、12号もまた宮古、石垣に方向を変えてくれた。

龍宮神に感謝しながら予定通りに進んだ内灘の旅だが、前回60周年のときは、みちさが一緒だった。今回は愛が同行してくれて安心。着いたその夜は金沢市で交流会が開かれ、「砂と風の館」の館長・西尾雄二さんと久しぶりに歓談した。海沿いに隣接する内灘町だが、知る人ぞ知る、米軍の演習基地化を阻止した「おかかたち」の町。1953年の内灘闘争から70年のこれから、如何にして闘争の記録を意義あるものにするかが問題であった。

私は「おかかたち」が座り込んだという権現森について質問し、西尾さんから重要なことを聞いた。以前はそこに出雲系の神社があり、祭神がオオナムチであったという。それと、今回も資料として送られてきた芦田高子歌集『内灘』が、前回は星野尚美さんから送られていたが、その星野さんが芦田高子さんのご子息であることもあらためて知った。その歌集の「貝がらの夢」で歌われた「おとぎの国、亀、乙姫、浦島、龍宮」などの言葉は、明らかに内灘と沖縄の龍宮神信仰とが繋がっていた証であり、そもそもウチナーとウチナダは結びついた響であった。また祭神オオナムチとはオオナジムのこと、それは「大奴の神武」即ち、大奴の国である沖縄の龍宮神ジュゴンを指す言葉であった。権現のゴンとはジュゴンのゴンで、人々を守るために龍宮神が現れることを信じて、おかかたちが権現社に座り込んだということではなかったか。

私は2日の集会で思いつくままに語り歌い、そして最後に、喜瀬武原闘争70年を記念してコンサートを行うことを報告。今一度内灘闘争のおかかたちと喜瀬武原の歌の「母が立っている」ことの意義を立ち上げようと思う。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

ホープスポット看板を見に行こう！

日本初のホープスポットを広げるために、名護市東海岸の瀬嵩の浜、安部海岸の入り口に看板が設置されています。ジュゴンやウミガメ、サンゴなど、色んな生き物が描かれたと

てもステキな看板です。

瀬嵩の看板は名護市久志郵便局の向かいにあり、すぐ横に浜への入り口があります。瀬嵩の浜は、大浦湾中に生息する貝がゆりあげ（打上げ）られるきれいな浜で、ここで、大浦湾の自然を守り、平和を願う音楽イベント“満月まつり”が毎年開催されます（コロナ禍で3年中止、今年は4年ぶりに10/29開催予定）。安部の看板は安部公民館のそばにあり、瀬嵩の看板より小さくかわいい看板です。

シュワブゲート前のテントから、瀬嵩看板までは車で約10分。そこから安部まで約10分です。辺野古に行かれる際は、ぜひこちらまで足を延ばしてください。瀬嵩の近くの汀間漁港では、世界最大級のアオサンゴやハマサンゴが見られるグラスボートに乗ることが出来るので、こちらもオススメです。（予約はじゅごんの里HPから）

<https://www.dugongnosato.jp/>

瀬嵩の浜に立つと辺野古の工事の船が目に入ります。安部の沿岸には2016年にオスプレイが墜落しました。軍事基地をなくして豊かな自然と暮らしを取り戻しましょう。

※今年の6月、瀬嵩と安部に行ったときにホープスポット看板案内の動画を撮りました。どうぞご覧ください。



【動画】（右の二次元バーコードからもアクセス出来ます。）

瀬嵩編 <https://www.youtube.com/watch?v=ICl-8sl5Ew&t=18s>



瀬嵩編



安部編



INFORMATION



<全国・首都圏>

- ・10/2(月) 18:30~19:00 防衛省抗議・申し入れ行動
呼びかけ: 辺野古への基地建設を許さない実行委員会
- ・10/15(日) 14:00~15:30 第6回オンラインセミナー
講師 向井宏さん 詳細は下記
- ・10/29(日) 団結まつり
11:00~ 亀戸公園
- ・12/1(金) 政府交渉(防衛省、環境省) (予定。詳細は後日)

- <沖縄>
- ・10/29(日) 満月まつり 瀬嵩の浜
 - ・11/23(木) 沖縄県民大会 奥武山公園

《 今後のスケジュール 》

<関西>

- ・9/28(木) 14:00~ じゅごん茶話会
SDCC 関西事務所
- ・10/12(木) 本澄寺御難会にブース参加 14:00~16:00 程度
- ・10/21(土) とめよう! 戦争への道・めざそう!
アジアの平和 2023 秋 関西のつどい
13:30 開場~ エルシアター 山城博治さん
- ・10/22(日) 団結まつり
11:00~ 扇町公園
- ・11/18(土) 19(日) 大阪市自然史フェスティバル
大阪市立自然史博物館
- ・11/23(木) 沖縄県民大会同時集会 in おおさか
13:30 開会 西梅田公園 15:00 閉会 終了後デモ



第6回ジュゴンオンラインセミナー

ホープスポット・辺野古・大浦湾を海洋保護区に

2030年までに地球上の海と陸それぞれの30%を保護区にすること(30by30)が、昨年12月の生物多様性条約締約国会議(COP15)で採択されました。私たちは、日本初のホープスポットに認定された辺野古・大浦湾は、絶滅危惧種 262 種をはじめ、5,334 種の生物が生息し、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い海域(重要海域)」にも選ばれていて、30by30の保護区にふさわしい場所と考えています。今回のセミナーは、重要海域抽出の検討委員をされた向井宏さんのお話を聞き、「辺野古・大浦湾を海洋保護区に!」の取り組みをさらに進める契機としたいと思います。ぜひご視聴ください。



向井 宏さん

日時: 10月15日(日) 午後2時~3時半

講師: 向井 宏 (重要海域抽出の検討委員、海草生態系の群集生態学の研究者)

参加費: 500 円

配信方法: YouTube チャット機能で質問を受け付けます

申し込み方法: info@sdcc.jp にメールでご連絡の上、10月13日(金)までに参加費 500 円をお振込みください。入金確認後 YouTube の配信アドレスをお送りします。(アーカイブご希望の場合は 10/13 以降も受け付けます)

振込先: 下記 SDCC ゆうちょ口座



PHOTO 9/4 防衛省前 抗議・申し入れ行動から

Editor's Note

今もウクライナでは戦闘で人が死んでいます。沖縄の島々では自衛隊の配備が進み、最高裁は9月4日、国土交通大臣の沖縄県の設計変更不承認を無効とし、「是正指示」をした判断を有効としました。しかし命ほど尊いものはありません。海勢頭さんが7面コラムで書いた「喜瀬武原の歌の『母が立っている』ことの意義を立ち上げようと思う」という言葉を、かみしめてます。(M)

会費(2000 円)&カンパ振り込み先

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

口座番号 00140-9-660199

他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 〇一九支店

口座番号 普通 0660199

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.130 2023 年 9 月 25 日発行

ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)

(首都圏事務所) 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-38

大曲マンション 201 号 なかま共同事務所内

(関西事務所) 〒534-0025 大阪市都島区片町 2-9-21 京橋ベース 302 号

連絡は以下のメールにて受け付けております。

○ URL <http://www.sdcc.jp/>

○ E-MAIL info@sdcc.jp

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!



SDCC の website
<http://www.sdcc.jp/>
には、左記 QR コードより
アクセスできます

会員・協力者の皆さんへ

2023 年 9 月

国と地方は対等。最高裁判決に従う義務はない。設計変更不承認を支え、
辺野古・大浦湾を海洋保護区に

9 月 4 日、最高裁判所は国土交通大臣の玉城デニー知事に対する設計変更不承認の無効と是正指示を有効とする判決を出しました。軟弱地盤問題やジュゴンをはじめとする環境影響など、不承認の具体的理由に関する審理を一切行わず、「門前払い」で国の判断を追認した不当判決です。

しかし、「是正指示」が有効とされても、不承認を取り消し、設計変更を承認する義務は玉城デニー知事にはありません。知事の不承認判断は 70%以上が辺野古新基地反対表明した県民投票をはじめとする民意に支えられています。

「国と地方は対等」が地方自治法の原則。国が工事を継続するには、代執行訴訟を起こし、勝訴する必要があります。民意を踏みにじった工事はそう簡単に強行できるものではありません。

9 月 13 日、OEJP (Okinawa Environmental Justice Project) は記者会見を行い、国防総省に米情報公開法にもとづき「軟弱地盤を科学的にどう評価しているか」などを情報開示請求したと表明しました。SDCC 国際担当でもある吉川秀樹さんは「国防総省の分析評価を確認、検討せずに知事が設計変更を承認することはできないはずだ」と開示請求の意味を説明しました。埋め立てを中止させ、辺野古・大浦湾を海洋保護区にするとりくみはこれからです。

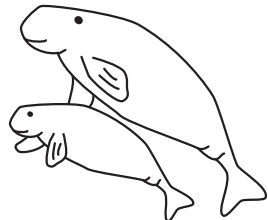
ニュース 9 月号 (Vol.130) では、1 面で石垣島の「いのちと暮らしを守るオーバーたちの会」から学んだ「島には戦（いくさ）がなかった」という絶対平和の思想と Hope Spot を守る意味。2,3 面では、最高裁判決後の運動の方向と情報公開請求、世界自然遺産委員会などの国際的取り組み。4,5 面では、沖縄、首都圏、関西のとりくみ。6,7 面では海勢頭豊さんのコラムで「喜瀬武原」の歌を今につないで歌い継ぐ思いが語られています。

12 月初旬には、防衛省、環境省との交渉を行い、署名提出を行う予定です。今回も裏面に署名を印刷しますので、ぜひ普及してください。よろしくお願いいたします。残暑厳しい折ですが、希望を持って進んでいきましょう。





ジュゴンの海とやんばるの森を守りたい！ 辺野古のすべての工事を中止してください！



内閣総理大臣 岸田 文雄 殿

2021年11月25日、玉城デニー沖縄県知事は、沖縄防衛局による大浦湾の海底軟弱地盤の改良工事を中心とした設計変更申請に不承認判断をしました。ジュゴンやサンゴなどの環境保全策が不明確、特にジュゴンに関して、夜間航行する作業船の音響がジュゴンに与える影響を考慮していないと指摘しました。そして軟弱地盤に関しては、最も軟弱と考えられる地点での実測データがなく、地盤改良工事の科学的根拠がないと指摘しました。

沖縄防衛局は裁判で玉城デニー沖縄県知事の不承認を覆そうとしています。そして、「承認を受けた範囲の工事は進める」と居直り、工事を強行しています。軟弱地盤などで工事の見通しが立たない中で莫大な工事費を投入することは税金の無駄です。普天間基地の危険性を早期に除去するためにも玉城デニー沖縄県知事と協議を進めるべきです。

また海と山の自然環境は一体のものです。沖縄県北部のやんばるの森は世界自然遺産に指定されました。しかし指定地域内にある米軍北部演習場返還地には、今も膨大な米軍の軍事廃棄物が放置されています。これは世界自然遺産の運用指針に反しています。日米両政府の責任で早急に撤去してください。これが真の世界自然遺産への道です。

玉城デニー沖縄県知事の設計変更不承認を強く支持し、ジュゴンの海とやんばるの森を守るため 下記を要請します。

(要請項目)

1. 玉城デニー沖縄県知事の設計変更不承認をふまえて、辺野古のすべての工事を中止すること。
2. ジュゴンに影響を与える作業船の夜間航行を直ちに停止すること。
「ジュゴン絶滅論」を英国科学雑誌に投稿した「環境監視等委員会」の委員3名を解任すること。
3. やんばるの米軍北部演習場返還地に投棄されている米軍廃棄物を直ちに撤去すること。
米軍輸送機オスプレイの訓練を停止させること。

取扱い団体 ()

お名前	ご住所
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県

呼びかけ団体：ジュゴン保護キャンペーンセンター（SDCC）、じゅごんの里

署名集約先：ジュゴン保護キャンペーンセンター

署名の集約期限：2023年11月15日

〒534-0025 大阪府大阪市都島区片町2丁目9番21号 京橋ベース(旧野口ビル) 302号

TEL/FAX 06-6353-0514 ★☆☆ 署名を他の目的には使用しません ★☆☆

